

古典学習指導の反省と課題

伊勢物語23・24段の受容の実態を中心に――

伊 東 武 雄

はじめに

昭和五七年一二月、広島県立高陽高等学校第一学年二級(男45名・女45名)を対象に、伊勢物語23段と24段にとりくむ機会を得た。高校生の古典はなれが問題にされている現在、高校一年生が古典をどのように受けとめているか、学習後に実施したアンケートの整理を手がかりに、受容の実態を明らかにし、わたくしの古典学習指導についての、いくつかの反省と課題をまとめてみたい。

一、授業の実践

○指導対象 広島県立高陽高等学校第一学年 二級(A級男22名・女23名、B級男23名・女22名)

○指導時期 57年12月(5時間を使用)

○指導教材 第一学習社 高等学校国語① 理解編Ⅱ(古文)

伊勢物語、筒井筒「河内へも行かずなりにけり」まで、あつり月

古文入門(仁和寺にある法師・児のそら寝、愛のかたち)(竹取物語―かくや姫のおいたち)につぐ授業である。

(一) 目標 次の四つの目標をたてた。

- 1 伊勢物語の愛の世界にふれ、その美しさを理解する。
- 2 男女の愛についての思いを深め、人間の生き方について考える。
- 3 口語訳では味わえない古文表現の微妙なニュアンスを味読する。
- 4 古語への関心・理解を深める。

(二) 留意点 次の五点に留意した。

- 1 藤原与一先生の読解の三段階法を適用する。
- ① 素材読み…時・所・登場人物・事件を検討し、整理する。
- ② 文法読み…文章の流れ・構成を明確にする。
助動詞、「き」と「けり」のちがいを
- ③ 表現読み…
係結び法「こそ」と「ぞ」のちがいを
反復継続の助詞「つつ」の確認

次の表現に留意する。

① けり(間接体験) 地の文に使用。

昔男ありけり

き(直接体験) 和歌に使用。

井筒にかけし くらべこし

助動詞「けり」にこめられた物語性、「き」と「けり」の使い分け（現代語で「た」と訳しても両者にはきちんとした使い分けがあること）。

㊦ 男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでなむありける。

妻にするには絶対はこの女でなくてはならないとする男の強い思い。男をずっと思いつづける女の内に秘めた激しい愛↓第二段の女の行為の伏線となっている。

㊧ あらたまの年の三年を待ちわびてただこよひこそ新枕すれ

相思はで離れぬ人をとどめかねわが身は今ぞ消え果てぬめる他の日ではない、「こよひ」が新しい夫と新しい生活を始める運命の日であること、なぜきのうにも帰ってきてくれなかったのかという妻の夫への恨み、自己の運命への悲しみが「こそ」にこめられている。

今まさに死んでいかねばならない強い悲しみが「ぞ」にこめられている。

2 23段と24段の比較読み（対比読み）を重視する。

↓伊勢物語のひたぶるな一途な愛、純粋な愛情の美しさを理解させる。

3 生徒の感想・鑑賞をたいせつにする。

↓感想メモの作成、アンケート法の活用。

4 ノ書く機会を多くもつ。

↓書くことにより思考を深め確実にする。短いものでよい、現代

文はもちろん古典についてもできるだけ書かせることは必要であらう。

5 ノート指導に留意する。

(二) 指導過程

I

〈導入〉

1 伊勢物語について

注2・3のものを参考に簡単にまとめた。

① 愛情の書であること。（注2）

② 愛情を無視する藤原専制政治への批判の書であること。（注3）

（注3）

③ 歌物語であること。

〈展開〉

2 音読（教師範読、生徒音読練習、指名された生徒が前に出て読む）

3 通釈（教師）
↓ノートへの傍注作業
文法読み

4 構成
（生徒）
↓表現読み

II 23段

① 幼なじみの愛
（たけくらべ）

② 大和の女性―無償の愛情

③ （河内の女性―省略）

文法読み

III 24段

① 夫と妻の別れ：別れ惜しみて行きけるままに

② 夫の帰宅：夫の大きな愛

③ 妻の絶命：妻の悲しみ

5 内容の整理

素材読み

V

〈まとめ〉

6 23段と24段の比較読み (生徒参照)

素材読み

教科書の学習の手引きの検討

〈口語訳プリント配布 (注4のもの)〉生徒に大変役立つ

7 読後の感想 (感想メモ用紙使用)

〈第二学期期末テスト12 / 〉

IV

8 アンケート作成 12 / 16・12 / 18

伊勢物語二・三段・二四段を学習して

〈ノート提出〉

注1①・②については、小学館サービス「国語フォーラム」第一巻8号(58年11月号)「何のための文法教育か」に述べた。

2 松尾 聡 伊勢物語 アテネ文庫古典読解シリーズ16

3 池田 勉 伊勢物語 成城国文学会編文芸読本Ⅱ・5

4 池田 勉 伊勢物語の新解釈 昭25・7 市ヶ谷出版社

5 池田 勉 伊勢物語の新解釈 昭30・11 有精堂

いずれも高校生の古典鑑賞に役立つ書物である。

ノート指導は次のように行なった。一女生徒のノートである。

あづさの月

昔、男、片田舎に住みけり。男、官仕へしにと

て、別れ惜しみて行きけるまゝに、三年来ざりけ

れば、待ちわびたりけるに、いとねむごろに言ひ

ける人に、「こよひあはむ。」と契りたりけるに、

片田舎

1 男の官仕え

妻との別れ 深い愛情

(妻) 待ち (妻) 待ち

(妻) 待ち (妻) 待ち

経済的困窮

夫が帰つて来ました

「この戸をあけてくれ」
この男来たりけり。「この戸あけたまへ」とたた

いたけれど

あけないで

よんでしまいました

きけれど、あけ(で)歌をなむよみていだしたり

強めの助詞

係り結び
ける。

枕詞

あらたまの年の三年を待ちわびて

ただこよひこそ新枕すれ

歌をだしたところ
と言ひいだしたりければ、

序詞

あづさ弓櫛弓年を経て

→た

わがせ(し)がごとつるはしみせよ

第四時限、23段と24段の比較読みは、生徒と対話しながら、次のようにまとめた。

2 ← (3年)

いとねむごろに言ひける人

こよひあはむ(結婚しよう)

結婚の約束

男の帰宅

戸をたたく

① 妻の歌

ただこよひこそ新枕すれ

困りはてた気持、途方にくれ

とまどい、混乱

夫への恨み

② 夫の歌

わがせしがごとつるはしみせよ

妻の幸福を願う 大きな愛

③ 妻の歌

昔より心は君に寄りにしものを

夫への愛情

夫をひきとめる

3 妻の絶命

④ 妻の辞世の歌

伊勢物語二三段と二四段の比較読み(板書)

伊勢物語

筒井筒(23段)

無償の愛情

妻の自己犠牲による献身的な愛

純愛の世界

昔

けるを

大和

田舎わたらひ

井のもと

時 所 人

男=女

この女をこそ得め
この男をと思ひつつ

強い愛情

事件

(1) 愛の成就

あひにけり(結婚)

(2) 新しい通い所

〈経済的破綻〉

妻の献身的な愛

夫の安否を気づかう

(独詠歌)

風吹けば沖の白波(序詞)

かなし(愛)

あづさ弓(24段)

夫の妻の幸せを願う、大きな愛情

深い愛の世界

昔

けり

片田舎

妻=夫

別れ惜しみて

深い愛情

(ねむころに言ひける人：新しい男)

(1) 宮仕え

3年

(2) 夫の帰宅

妻への広い深い愛情

妻の幸せを願う

(贈答歌)

かなし(悲)(独詠歌)

辞世の歌

結果

ハッピーエンド

夫をひきとめる

悲劇

夫去り妻は絶命

読後の感想は、次のような短文作文の用紙に自由に書かせた。

伊勢物語を読んで

一年 六編 二千字

氏名 向井 悟司

伊勢物語を読んで愛とは美くしいものだなあーと思つた。阿井岡では浮気している男のこゝをまったく嫌おうともせず信じきっている妻がとてもいじらしく思え、あつさ巧では、またべつの形で感動した。とても教養が深まる作品だと思つた。

文字は楷書で正しく書くこと。

「」は二字分とすること。

広島県立高陽高等学校

伊勢物語23・24段を学習して

一年 三編 四千字

氏名 山村 勢子

23段は、最後ハッピーエンドになつて良かった。この妻はすぐくえらひと思つた。いやな顔せずにお返しして、なかなかでもないところだと思つた。24段は、この女がすぐくかわいそうだった。男は結構するなと言つてやれば良かったのに。でも本当に妻のことと思つているんだなあと思つた。

文字は楷書で正しく書くこと。

広島県立高陽高等学校

阿井岡について

一年 三編 二千字

氏名 井岡 安恵

この二つの歌を読んで、阿井岡の方は、おきな友だちだった二人が、年ごろになつて、お互いに恥づかしくなるといふのは、よくあることだと思つた。が、妻は、夫に新しい女ができて、おこらずに、夫の安否を、気づかうといふのは、今の時代では、めつたにないことだと思つた。この二人の愛情が深いことがよくわかつた。

文字は楷書で正しく書くこと。

「」は二字分とすること。

広島県立高陽高等学校

第五時限、次のようなアンケート用紙に記入を求めた。生徒は熱心に、本気で記入している。ここでは、その二例を紹介する。

伊勢物語二三段・二四段を学習して

57・12・16 (木曜)

一年 三編 44番 氏名 柳田祥子

23段

一 感銘度 ○印を施し理由を記せ。

ア 大変感動した

イ 感動した

24段

一 感銘度

⑦ 大変感動した

イ 感動した

ウ 感動しなかった
理由

昔にもあんなメロドラマ
的な愛があったとは思わな
かったから。

二 理解度 ○印を施し理由を
記せ。

ア よく理解できた
① だいたい理解できた
ウ 理解できなかった
理由

話のすじが理解できた。

三 効用 ○を施し理由を記
せ。

学習してよかったか
⑦ はい イ いいえ
理由

人を信じる事が含まれ
ていたから。

ウ 感動しなかった
理由

最後は結ばれると思つて
いたのに死んでしまったか
ら。

二 理解度

ア よく理解できた
① だいたい理解できた
ウ 理解できなかった
理由

板書に書かれていたので

三 効用

学習してよかったか
⑦ はい イ いいえ
理由

話がとてもよかったか
ら。

四 学習上困ったこと、三つ挙げよ。

ア 語句の意味がはっきりわからなかった。
イ 読みがむずかしかった。

ウ 板書の字が小さくてみえにくかったこと。

五 疑問点

なぜ化粧をしたのか。

六 登場人物について

男 昔はあんなにこの女こそ
と思つていたのに、結婚す
ると新しい女をつくるなん
て考えられない。

女 新しい女をつくられても

何も言わずに送り出すこと
ろなどには感動した。

七 感想

夫が宮仕へにいつて三年

目にちょうど新しい男がで
きたこと。

五 疑問点

六 登場人物について

男 なぜもつとはやく帰つて
きてあげなかったのか、手
紙ぐらいだせばいいのにと
思う。

女 古い夫と新しい男との間

に悩みながらも、夫を追い
かけるすがたに感動した。

七 感想

最後はまた元のように仲
よくなつてよかった。あの
ままでは女の方がかわいそ
うでたまらない。

〈まとめ〉

とてもいい、こういう話を古文でよんでみるのもなかなか
だと思ふ。

八 23段と24段とどちらがよかったか。(24)段
その理由

女が最後、劇的な場面で死んでいくのが、とても感動し
た。

九 伊勢物語のこのような段をもっと読んでみたいか。⑦ はい
イ いいえ

伊勢物語二三段・二四段を学習して

一年 六組 二三番 氏名 井上 英美

23段

一 感銘度 ○印を施し理由を
記せ。

24段

一 感銘度

指の血で歌をかいたとこ
ろは、また一段と胸がジ
ンとした。なぜ夫に追いつ
かなかったのかと作者をう
らみたくなってくる。

⑦ 大変感動した
イ 感動した
ウ 感動しなかった
理由

女(妻)の男(夫)に対
する言葉では言い表せない
ぐらいの深い愛情に感動し
た。

二 理解度 ○印を施し理由を
記せ。

ア よく理解できた
① だいたい理解できた
ウ 理解できなかった
理由

活用形が少しあやふやだ
ったけれど、だいたい理解
できた。

三 効用 ○を施し理由を記
せ。

学習してよかったか
⑦ はい イ いいえ

ア 大変感動した
① 感動した
ウ 感動しなかった
理由

愛し合っているのに、愛
は実らず悲しく終わってし
まうところを考えさせられ
た。

二 理解度

ア よく理解できた
① だいたい理解できた
ウ 理解できなかった
理由

文中に出てくる言葉(の
意味)が難しかった。

三 効用

学習してよかったか
⑦ はい イ いいえ

理由

学習面でなく、生活的な心のあり方などにも勉強になったから。

四 学習上困ったこと、三つ挙げよ。

ア 最初難しい語句の意味がわからなかった

イ 文法的なことがわからなかった

ウ 課題帳があまりできなかったこと

五 疑問点

あんなにも深い愛が、なぜこわれてしまったのだらうか。

六 登場人物について

男 たとえ貧しくあろうとも、二人の深い愛をこわしてはしかなかった。

理由

文法的な事がだいお理解できたから。

五 疑問点

一人の女を愛した二人の男はそれぞれどんな心境だったのだらうか。

六 登場人物について

男「他の男がいる」と女に言われた時、家の戸を無理矢理戸を開けさすこともなく去っていった所は感動した。

女 夫を信じて「いつかきちんと帰ってくる」と信じていた、強く優しい心を持った人はすばらしい。

七 感想

愛は感情的なものだけでこわれていくのではなく、金銭的なものや物質的なものでこわれていくことはとても悲しいことだと思う。

へまとめて

人を愛するということは簡単のように見えるけれど、実際は難しいものだなあと思う。

八 23段と24段とどちらがよかったか。(23)段

その理由

女の男に対する深い愛情にとても感動したから。

九 伊勢物語のこのような段をもっと読んでみたいか。⑦ はい

イ いいえ

女 きつと他の男と結婚しても、まだ前の夫の事が忘れられないで迷っていたのではないかと思う。

七 感想

二人の愛はとても悲しいと思う。どんなに愛し合っているにも実ることなく終わってしまうから。

二、授業の反省

前記アンケートの学習上の困難点と疑問点の実態を手がかりに、授業の反省をまとめてみたい。

まず、教材の学習上の困難点としては、次のことが挙げられている。
(数字は人数)

- ① むずかしい語・ことばが多かった
- ② 読みがむずかしかった
- ③ 語句の意味がよくわからなかった
- ④ 意味がよくわからなかった
- ⑤ 口語訳がむずかしかった
- ⑥ 和歌がわかりにくかった
- ⑦ 内容がむずかしかった
- ⑧ 長いので読みづらかった
- ⑨ 文法がわからない、わかりにくい
- 文法的なこと (12) 歴史的かなづかい (2)
- 品詞の識別 (1) 活用 (7)

30 4 13 13 10 11 13 13 7

助動詞 (5) 係結びの法則 (3)

予想以上に言語的抵抗が大きい。意味を中心に①きめ細かな読みの指導②語い指導③口語訳の指導④和歌の指導⑤内容の指導⑥文法の指導が必要であった。

口語訳、傍注、語い、文法、内容についての設問などのプリントを用意し、活用する必要があった。

23段の幼なじみの愛への反応も期待したようにアンケートで答え

られていない。次のような設問プリントを用意して生徒に主体的に考えさせる必要があった。

- ① 「おとなになりにければ、男も女も恥ぢか^いは^いて、ありければ」
とあるが、なぜか。
- ② 「男はこの女をこそ、得め。」女はこの男をと思ひつつには、男と女のどんな気持がこめられているか。
- ③ 男と女の贈答歌はどんなことをいおうとしているのか。
語い指導も重要語句の指導をもっと徹底すべきであった。例えば23段では、

① 「男」と「女」(固有名詞を使っていない) ↓愛の世界に用いることば、「男」と「女」の本質を示す。

② 「恥づ」

③ 「妹」と「背」、「まろ」と「君」(対立語)

④ 「あふ」(現代語とのちがい)

⑤ 「あし」と「わろし」(反対語)

⑥ 「うちながむ」(王朝の物思いの姿勢)

⑦ 「かなし」(愛し)「悲し」ではない

むずかしいとする語句を原文に則して具体的に指摘させて学習することを考えてもよかった。語い指導、表現指導のくふうがいった。

授業上困ったこととしては、次のことが挙げられている。

1 板書がわからなかった

字が小さくて読みにくい、板書が早い、大きくきれいな字でゆっくり書いてほしい。

- 2 先生のスピーチが速い 4
 - 3 授業のテンポが速くて内容がうまく理解できなかった 8
 - 4 口語訳がわかりにくい 11
 - 5 解説のことはがよくわからなかった 2
 - 6 先生のむだな話で先にすまないポイントをもとめて教えてほしい 3
 - 7 すぐにねむくなる 2
 - 9 ノート整理がきちんとできなかった 2
 - 10 課題帳があまりできなかった 2
 - 10 時間的に余裕がなかった 2
- 授業についての批判・要望も多かった。生徒のことはを謙虚に受けとめて、初心にかえて、次のことを中心に基本的な指導技術を反省し、その向上をねらっていきたい。
- 1 板書法 2 傍注指導・口語訳指導 3 発問法(話法)
 - 4 授業速度
- ノート法の指導に重点をおいて、生徒の学習習慣を確立させることも必要である。

疑問点としては、登場人物の心理と行動、筋の展開、愛のあり方

など、すべて内容に関するものが示されている。代表的なものとして、次のものが挙げられる。(数字は人数を示す)

23段

- ① 愛し合って結婚したのに、なぜ男は他の女をつくったのか 17
- ② 妻はどうしてあのようにしてまで夫を許したのか 9
- ③ 妻はなぜ黙って夫を送り出したのか 3
- ④ 妻はなぜあの時、化粧したのか 2
- ⑤ 夫の安否を気づかう妻の気持 2
- ⑥ あんなに深い愛がなぜこわれたのか 4
- ⑦ なぜあんな男が好きになれるのか 2
- ⑧ 妻が歌を詠まずとり乱していたらどうなっていたか 2
- ⑨ この後どうなっただろう 2

24段

- ① 夫はなぜ妻にたよりをしなかったのか 3
- ② なぜもつと早く帰ってこなかったのか 4
- ③ 妻はどうして夫が待てなかったのか 9
- ④ 妻は夫を愛しながらなぜ求婚に応じたのか 10
- ⑤ 男はなぜ立ち去っていたのか 7
- ⑥ なぜ妻は死んだのか 12
- ⑦ 女はなぜ歌でつらい心境をつたえたのか 2
- ⑧ 男が立ち去ることで妻を幸せにできたのか 2
- ⑨ 夫はこの後どうなっていたか、どうしたか 9

う。続きはどうなるだらう。
(2)

疑問点を整理して、内容についての設問を用意して、グループで話しあう機会をもつことも必要であった。

物語の続きを創作させる作業を試みることも効果的であらう。
伊勢物語23・24段は、ともに、愛の本質について考えるのにふさわしい、むだをはぶいた簡潔な文章である。豊かな想像力を働かせて読む必要があること、またそこに文学を読む楽しさがあることを教えるべきであった。そのための表現に即した設問、内容についての設問を用意して、古典を文学作品として鑑賞させる努力をすべきであった。

生徒の伊勢物語への愛着は高い。このような段をもっと読んでみたいかという問に対する結果は、次のようになっている。

			A組				
			男	女			
アはい	12	9	1	6	B組	2	(1)
	17	6	2	9		(1)	4
イいいえ	12	9	3	18	計	10	28
	15	4	(1)	10		32	56
無記入		1	9	6	2	(1)	4

青春の書であり、愛情の書である伊勢物語の教材化はさらにすすめられてよいであらう。

三、受容の実態

(一) 感銘度の実態

23段・24段とも感銘度はかなり高く、伊勢物語の純粋な愛情の世界にかなりの関心を示している。

			23段				
			男	女			
ア 大変感動した	4	7	14	27	24段	9	18
	7	11	9	27		29	56
イ 感動した	27	54	21	54	計	14	56
	27	9	9	27		14	56
ウ 感動しなかった	14	27	9	27	計	14	56
	27	9	9	27		14	56

その理由は次のようにまとめられる。
23段

			A組				
			男	女			
1 妻の夫への深い愛情	6	6	0	6	B組	1	2
	6	4	1	2		2	7
2 妻のやさしさ、けなげさ	4	6	0	2	計	5	15
	3	5	0	2		15	19
3 幼なじみの愛情	0	3	0	3	計	5	15
	0	10	0	6		15	19
4 筋の展開のおもしろさ	7	10	7	9	計	9	15
	0	9	7	9		15	19
5 愛の物語への感動	2	2	2	2	計	7	15
	2	2	2	2		15	19
6 その他	0	1	0	1	計	7	15
	2	1	2	1		15	19

	A組		B組		計
	男	女	男	女	
1 夫の妻への大きな愛情	3	8	6	4	男 女
2 妻の行為・心情	3	4	2	0	男 女
3 男と女の愛の深さ	0	4	1	5	男 女
4 結末の悲劇性	7	11	5	4	男 女
5 愛の物語への感動	1	0	2	0	男 女
	0	11	4	15	男 女
	2	0	3	0	男 女
	3	12	5	3	男 女
	0	15	6	9	男 女
	3	27	6	24	男 女

教材は、この時点の生徒にとってはかなりむずかしいものであった。(理解の実態、学習上の困難点参照)しかし、筋の展開、登場人物の人間像などの内容のおもしろさにかんがりの感銘度を得ている。

生徒が関心をもちうる教材の発掘が古典学習指導の第一の重要な課題であることを示している。

感動しなかった理由として、次のことが挙げられている。

- 1 ストーリーが平凡である。ありふれた物語でよくあるパターン、新鮮味がない。
- 2 感動するところがない。ぱっとするところがない。
- 3 ことが理解しかねた。意味がよくわからない。話がよくわからなかった。

感動しなかった理由から、無関心・無感動・無理解の実態が認めら

れる。男子に多く、今後増大することが予想される。こうした生徒にどう対処していくかも今後の大きな課題である。

(二) 理解の実態

	23 段		24 段	
	男	女	男	女
アよく理解できた	1	1	5	1
イだいたい理解できた	35	40	34	38
ウ理解できなかった	8	2	6	4
	10	75	10	72

だいたい理解できた理由として次のことが挙げられている。

- 1 話が興味深くわかりやすかった。物語の展開や話の内容がだいたい理解できた。

だいたいの意味がわかった。贈答歌もよくわかった。男女の気持や愛の世界がわかった。

- 2 まじめに勉強した。ノートをきちんと整理し、課題帳をした。授業をまじめに受けた。先生の説明をきちんと聞いた。説明がよくわかった。

- 3 プリントをもらってよくわかった。最初はよくわからなかったが、プリントをもらって、意味も話の内容もとてもよくわかった。

内容などはわかったが、文法的なところや細かいところの意味がわからなかった。語句の意味がむずかしかったとする者も多かつ

概して、あらすじの理解はできたものの、文法・語句など、表現の細部にわたっての理解は不十分であつたと言える。

代語にいいかえる力を育てるよりも、古文表現を正しく理解し、豊かに味わうようにさせることが古典学習のたいせつな指導となつて
 しよう。

ウ どちらとも言えない	0	13	32	男	23 段
	2	4	37	女	
	2	17	69	計	
	1	10	34	男	24 段
	2	6	35	女	
	3	16	69	計	

交月ありとする者が多い。その理由として次のようなことが挙げられている。

⑤愛の深さ、強さ、多様さを知った。

④ 一人の人を愛することは素晴らしいということがわかった。自分を犠牲にしても相手の幸せを願う愛もあることを知った。

⑤相手の気持を考える深くて大きい愛をよく理解することができた。

⑤ 夫婦愛がすばらしかった。

④今も昔も変わらない永遠の愛がわかった。

2 作品への興味・理解の深まり

⑦ いい物語だった。いい物語を知った。

①伊勢物語というものがわかった。伊勢物語を読んでよかった。

④ 佐々木物語の内容を少しでも知ることができた。

⑤言いかとてもよかった。楽しかった。感動した。

歌の効果がよかった。

3 古典の世界への理解の深まり

昔のことか。昔の風習やその時の生活がわかった。考
え方もわかった。

④昔の人の心の優しさ、感情の豊かさがわかった。

④昔のことは知った。

4 古文学習の深まり

の古文になれた。

④文法的なことがいふ理解できた。

古文の訴し方などがわかってきた。

ものもある。概して、男子の鑑賞があらう、女子の読みが深く鋭

生徒一人ひとりの個性的な読みをどのように深めていくかがたいな課題である。作品の内容を重視して、古典を文学作品として

鑑賞させることもたいせつである。

効用なしとする理由からは無理解（理解できない）、無気力（意味を認めない）、無関心（興味がもてない）の生徒もかなり見受けられる。

④ 登場人物についての受容の実態

23段の女性像については、献身的な無償の愛に感動、共鳴し、自分の不幸よりも夫の安否を案ずる、やさしくてしんの強い、ひたむきな女性をすばらしい、りっぱだと賛美する感想が圧倒的に多かった。

受け身的でもっと自主性があってもよいのではないかとする意見もあったが、批判的・否定的な感想は少なかった。

23段の男性像については、幼なじみの強い愛で結ばれながら新しい通い所を作ったことに対して、身勝手だ、薄情だ、無責任すぎる、いい加減だ、けしからん、腹が立つなど、きびしい意見が多かった。一夫多妻という社会で、経済的な破綻もあつてのことだからやむを得ない、根はいい人だとする好意的な意見もみられた。

24段の男性像については、妻のしあわせを願う男の広く大きい愛情に共感し、かわいそうだと同情する感想が多かった。

なぜ早く帰らなかったのか、妻がひきとめるのになぜ立ち去ったのかとする疑問的な感想もあった。

24段の女性像については、三年間待ちつづけて、最後に死んでいく女性にかわいそうだ、あわれだと同情する感想がかなりあった。

夫を信頼して待つべきであった、死ぬべきではなかったとする否定的・批判的な意見も多かった。

登場人物の生き方にはかなりの関心を示している。人物像についての指導をおしすすめていくことは、古典学習でたいせつな課題であらう。

⑤ 感想の実態

感想は、次の四つに大別できる。

- ① すじの展開、事件、結末についての感想
- ② 登場人物についての感想
- ③ 愛についての感想
- ④ その他

その内容をまとめると次のようになる。

23段

- ① ハッピーエンドでおわってよかった。ホッとした
- ② 妻の夫への深い愛、無償の愛情への感動

夫の安否を気づかう妻の生き方への感動

新しい通い所をつくったことへの批判

- ③ 愛の美しさ、はかなさ

《まとめの感想》は次のように要約できる。

- ① 23段と24段を比較しながら、多くの生徒は伊勢物語の愛情の世界に共鳴している。

24段

- ① 悲劇的な最後が感動的、じんときた。美しかった。かわいそうだった。
- ② 夫の妻への広くて深い愛への感動

音信不通であったこと、立ち去ったことへの批判、死んだことへの疑問

- ③ 愛のかなしさ、悲劇

② 現代と比較しながら、自分のことより愛する人の幸せを願う昔の人の純粹な愛のあり方に、現代と違ふところ、同じだとしたりしている。

③ 愛することのむずかしさを痛感し、愛についての認識を広げ、深めている。

古典文学における愛の姿にできるだけ触れさせ、高校生の愛についての認識を豊かにすることは、古典学習のたいせつな課題である。

古典の鑑賞指導をどのようにおしすすめていくかは、古典学習指導の大きな課題であり、作品鑑賞の手引きとなる高校生のため古典入門書が必要である。

四、今後の課題

前記の授業の反省と六つの古典学習の大きな課題をふまえて、私自身の今後の課題として、次のことを考えていきたい。

(一) 口語訳・現代語訳を活用する。

傍注作業についてこれない生徒がふえつつある傾向にある現在、詳しい傍注プリントか口語訳プリントを用意して、言語的抵抗をできるだけとりのぞく必要がある。内容への関心を高め、古典を文学作品として鑑賞させるよう努力したい。

(二) 古文表現の微妙さを味わわせる。

口語訳・現代語訳では味わえない古文表現を正しく豊かに理解させることは、古典学習上不可欠のことである。表現読みのための語い指導・文法指導をさらにくふうし、開発していきたい。

(三) 問題解決法を導入する。

読解の三段階法に基く設問プリントを用意して、生徒に主体的に考えることをさせた。

(四) 比較読みを実施する。

23段と24段の比較読みはかなり効果があったように思われる。今後この方法をおしすすめていきたい。例えば、

(ウ) 同じ教材の中での比較読み

↓ 23段、大和の女と河内の女との比較読み

(イ) 同じ作品の他の部分との比較読み

↓ 23段と24段との比較読み (今回の試み)

(ウ) 他の作品との比較読み

↓ 23段と大和物語一四九段、古今集卷十八 (雑下) 九九四

へよみ人知らずとの比較読み

↓ 24段と雨月物語「浅茅が宿」または今昔物語「芦刈」

(ウ) 現代文学との比較読み

↓ 23段第一段 (幼なじみの愛情) と「たけくらべ」野菊の墓」などの比較読み

↓ 23段第二段 (無償の愛情) と「虞美人草」

↓ 24段とデニスン「イノツクアードン」またはデュマー「椿姫」、中河与一「天の夕顔」、堀辰雄「曠野」

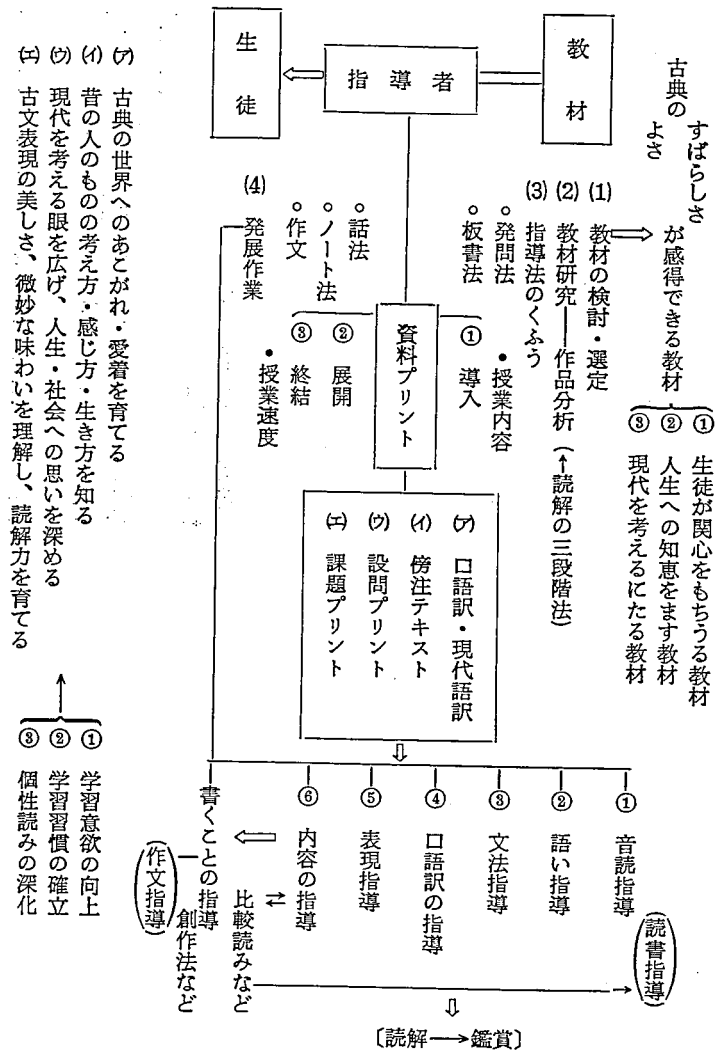
(四) 創作法などを試みる

想像をふくらませて、創作化させてみることも、読むことと書く

ことの総合化の一つの方法として考えてみたい。例えば、

(ウ) 自分の解釈をつけ加えて友人に語る形にする。(物語化)

それぞれについて、さらに工夫し、深めていきたい。



一、本稿は、第24回広島大学教育学部国語教育学会研究協議（昭58・8・11）及び昭和58年度解釈学会全国大会研究協議（昭58・8・26於広島大学教育学部）で提案したものである。

二、紙面の都合で、具体的な受容の実態については、大幅に割愛した。

三、拙著「高校古典教育の探究」（溪水社 昭58・3・1）では藤原与一先生の読解の三段階法をふまえて、創作法・比較読みなどを試みた。

昭60・1・5記

（広島県立高陽東高等学校教諭）